

# 平成28年度 食の安全安心と食育審議会「第2回食育推進部会」議事録

日時：平成28年9月21日(水)

14:00～16:10

場所：ひょうご女性交流館会議室501

## 1 あいさつ（藪本健康局長）

本日はお忙しい中、第2回食育推進部会にご参集いただき、ありがとうございます。また、委員の皆様方には、平素より県政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。

7月に開催しました「第1回食の安全安心と食育審議会」及び8月の「第1回食育推進部会」においては、「食育推進計画（第2次）」の成果と課題、第3次計画の重点課題について説明を行ない、今後取り組むべき課題についてご意見をいただき、ありがとうございました。

本日は、取り組みの柱に基づく施策展開、指標と目標値、計画推進のためのキャッチフレーズ等について検討いただくとともに、平成28年度「食育絵手紙」コンクールの審査を行っていただく予定とじていますので、よろしくお願い致します。

なお、部会での検討は、本日で最後となります。限られた時間となりますが、忌憚のないご意見、ご提言をいただきますようお願い申し上げます。

## 2 議事

### （部会長）

それでは、次第に従って進行させていただきます。今日は大きく議題が2つあります。1点目は「食育推進計画（第3次）の検討」、そして2点目は「絵手紙コンクールの審査」となっています。1点目の議題は、前回の部会における委員の意見を踏まえ、事務局において再検討いただいたものです。それでは1点目の議題について、事務局より説明をよろしく申し上げます。

### （事務局）

資料1、2、3により説明

### （部会長）

ありがとうございました。先ほど局長の挨拶にもありましたように、「第3次計画（案）」について皆さんに審議いただく場は本日で最後となります。で

は、事務局の説明を踏まえ、委員のみなさまからご意見いただきたいと思いません。

**(委員)**

資料1の1ページ、「食育とは」の説明内において、主語に係る「が」、「を」が適切でないところがあります。「健全な食生活“を”実践できる人を育てること」とすべき。他のページについても修正をお願いします。

資料1の13ページ、「学校給食での県産品使用割合は、価格や流通の課題により達成していない」とはどういった意味でしょうか。

**(事務局)**

食数の確保をするには、流通の確保ができない、また価格も高くなるということを示しています。

**(委員)**

給食に使用するには多くの量が必要となるが、県産だけではカバーできないという意味であるならば、課題解決ができる見通しがあるのでしょうか。解決できるのであれば指標として入れて良いと思いますが、根本の問題が他にあるのであれば、記載をしても意味がないのではないのでしょうか。

**(部会長)**

今は達していないが、今後の課題は「価格と流通」にあるという書き方に変えるべきですね。

**(委員)**

同じく13ページ、農産物直売所の設置数について記載がありますが、直売所は県内のどのあたりにあるのですか。県民が本当に利用できる場所なのでしょうか。場所を示していく必要があるのではないのでしょうか。

**(部会長)**

どこまでを直売所というかの定義にもよりますが、県内、神戸市内にもあります。

**(委員)**

14ページ、食と「農」に親しむ機会の増加について、「楽農生活交流人口数」「兵庫楽農生活センター入園者数・体験者数」には、県外の人も含められているのでしょうか。同じ人が2回以上利用していても、その都度1人として計上されるのでしょうか。

**(事務局)**

県外者と県内者の区別は行っていません。複数回利用している方もその都度

1人として計上し、積み上げています。

**(委員)**

そうすると、頭数が増えているのか、複数回通う熱心な人が増えているのかが分からないので、拡がりは見えないということですね。

また、交流人口数については、人口数と書くと、別の人のように見えるので、延べ利用者数と記載するほうが良いですね。

「楽農生活交流人口数」「兵庫楽農生活センター入園者数・体験者数」については、長いスパンで見ると、一点に達したと言えるのではないのでしょうか。今後の目標をどうするか考える必要がありますね。

それから、同じく14ページの右上、「認証食品（生鮮）流通割合」のグラフについて、縦軸横軸の標記が抜けており、わかりにくいので、記載しておくべきです。

**(事務局)**

「認証食品（生鮮）流通割合」のグラフは、県内生産食品の県内出荷量（県内仕向け量）に占める、認証食品（生鮮）の流通割合を示しています。説明をグラフに追記しておきます。

**(委員)**

資料2のキャッチフレーズ「ごはん、大豆、減塩、プラス1」のプラス1は一人一人が選ぶ、決めるということですね。例にあげている（ ）内のプラス1と、ごはん、大豆、減塩が、一部重なっているように思います。

**(委員)**

学校や病院、福祉施設等における県産品の使用は、目標まで達しておらず、なかなか進んでいないように思うので、今後も力を入れてもらいたいです。

栄養士会で活動をする中で、子どもから高齢者まで幅広く活動を行っているが、なかなか全体に目が届かないところがあります。各世代において焦点をあてた活動や、支援を行いやすい目標を示してもらえるとありがたいです。

高齢社会においては、一人暮らしや老老介護が課題となっています。そういった高齢者の世帯において、食費を節約しているという話を良く聞きます。ここへの支援も今後益々大切だと感じています。

**(委員)**

ライフステージ別に全て網羅されており、目標値もしっかりと整理され、示されているように感じます。

いずみ会で夏休みに多く開催した、子どもの食育活動の中で感じますが、子

どもの親は、とても忙しく過ごされています。別の事業で、よく関わる1～3歳の親は、熱心に食事の準備をされていますが、その後の親の状況がはっきりとは分かりません。小学校に入ると、小学校に栄養教諭がいれば、食育の話が学校であり、子どもから親へ伝わっていくことが期待できます。栄養教諭でない食育担当の先生が食育の指導をされることもあるとは思いますが、やはり全校に栄養教諭を配置していただけるとありがたいです。

また最近、地域の伝統料理、郷土料理が揺らいでいる、守っていくことが難しいとも感じています。例えば、淡路の郷土料理である押し寿司では、寿司の上には生魚を飾ることが通例となっていますが、調理実習において生魚の扱いが衛生上難しくなり、できなくなりました。代用として、ゆでた海老を飾りますが、これが淡路の押し寿司だと認識されると困ります。また、ちょぼ汁は、出産後、母体の回復に良いとして、昔から伝統的に食べられてきた料理ですが、ある妊婦の話によると、産科の先生に、ちょぼ汁は良くないと禁止された、とのこと。地域において長い間受け継がれてきた郷土料理を、今までどおり伝えていくことは、容易ではないと感じています。

#### (委員)

私の学校には、栄養教諭がおり、ランチルームで食事をする際には栄養教諭が食育の話をしています。でもそれよりも、食物アレルギーへの対応に栄養教諭は追われていますね。栄養教諭の業務の大半が、食物アレルギーの対応だという印象があります。

学校の給食献立表で、兵庫県産、西宮市産など産地記載を時々行っています。こういった記載があると、それがきっかけとなり、子ども達は興味を持って献立や給食を見ます。また昨年度、ほっとちゃんマークを集める取組みの呼びかけがあり、校区内のスーパーで生徒に探してもらいました。子どもも大人も、興味を持って取り組まれました。こういう少しのきっかけがあると、自分の食べている食べ物に関心を持つということを見ていて感じました。

親や子どもの興味のきっかけをどう作るか、アプローチの工夫が必要だと感じています。

#### (部会長)

県が行っている取組みを、上手く県民に伝える工夫を持つ必要がありますね。教育委員会と連携すると、学校へのアプローチはできますね。

#### (委員)

焦点を当てるのであれば、例えば、第3次では子ども、第4次では老人を対

象とする、または第3次の中で1年毎に焦点を当てる対象を変えるなど、まんべんなく県民に広がる取組みをお願いしたいです。

また、独居老人など、どうしても取りこぼれてしまう方への対応が課題だと思います。前回の話にもあったが、スーパー等の惣菜を充実させる等、適切な食事を手に入れる環境の充実をすすめることが大切だと思います。小学校での給食に地域や老人ホームのお年寄りを招き、交流をかねて一緒に食事をするこども、面白い取組みですね。

資料1の34ページ、新規の指標である「給食施設（学校・児童福祉施設）において肥満・やせの状況を把握している割合」はどのように把握するのですか。アンケート等を実施するのでしょうか。

#### （事務局）

健康増進法に基づく給食施設には、「給食施設栄養管理報告書」という報告書の提出を年1回お願いしています。その中で「身体状況の把握」、「肥満・やせの子どもの割合」を記載する項目があり、その状況から数値を算出することとしています。

#### （委員）

それでしたら、しっかりとした数値として把握できますね。

近年は、過食症や拒食症の子も多いと聞きますし、若い子のやせ願望もありますから、100%の目標値は少し難しいかもしれません。でも80、90%と伸びていくと良いですね。

それから、キャッチフレーズは良いイメージだと思います。もう少し具体的に示せると良いですね。

#### （委員）

多岐にわたって幅広く、よくまとめておられると思います。

まず、資料1の5ページ、(4)地域団体・関係団体の項目ですが、いずみ会や漁業協同組合連合会をはじめ様々な団体が色々な場で、食育活動を行っています。我々は、魚食の普及を行っていますが、活動をやればやるほど需要はあり、もっと出向いて活動をしたいのですが、そうすると費用がやはりネックになります。こういった食育活動は、手をかければかえるほど大きくなるし、良くなるのは確かなので、行政には更なる支援をお願いしたいと思います。

同じく16ページ、食育への関心と実践について食育に関心のある人は非常に高いですね。実践になると数値が下がります。ここで、自分自身に実践できているかを問うと、実践の尺度がなかなか難しいですね。年代によってできる実

践例などをわかりやすく示すと、取り組む人も増えるのではないのでしょうか。

15ページ、郷土料理の認知と実践ですが、兵庫県は日本の縮図と言われており、学校の指導教材の中でも、兵庫県の農林漁業産物を示す地図等もあり、意識は高まってきているように感じます。15ページの説明文にも、兵庫県の特産物をいくつか例をあげていただいているが、身近な食べ物がでてくると、興味を引きやすいですね。もっと多く例を並べても良いのではないのでしょうか。郷土料理についても、なかなかピンと来ないので、同じく多く例を並べても良いかと思います。阪神間は産地ブランドが少ないので苦しいですが、阪神間の子どもたちが、そのことを認識するものまた1つだと思います。

続いて39ページ、指標にあがっている「食の健康協力店」ですが、この食の健康協力店は、なにか分かりやすい目印などがあるのでしょうか。

#### **(事務局)**

登録いただいた協力店には、ステッカーを配付し掲示いただいています。また、タペストリー、のぼりも作成し、配付させていただいています。

#### **(委員)**

地元ブランドの宣伝にも繋がるかと思うので、協力店をもっと分かりやすくする工夫をしてもらいたいです。

また、42ページ、(3)地域色豊かな食文化の継承と創造について、情報の発信はHPのみとなるのでしょうか。業界団体もできる限り協力はしたいと思いますので、具体的な推進方法、PR方法を考えてもらいたいです。

#### **(部会長)**

食育は、内容が豊かなだけに、なかなか議論が難しいですね。でもみなさんから多くの意見をいただきました。全県民を対象としながら、重点は子ども、若い世代、それから高齢者へも目を向けた計画としていただきたいと思います。

県が基本計画をたてますが、推進はみなさんが協力をして行うこととなります。各分野において、主体的に食育を推進いただくよう、お願いします。

キャッチフレーズは、別途委員の方からご提案いただき、事務局と相談しながら決めたいと思います。計画(案)についても今日の意見を踏まえ事務局で整理いただき、委員へ確認依頼をしていただくよう、お願いします。

では、2点目の絵手紙の審査について、事務局より説明をお願いします。

#### **(事務局)**

審査について説明

#### **(部会長)**

今ご説明があったように、テーマ①は「食卓の思い出」、テーマ②「私が伝えたい食育メッセージ」ということです。その中から、各テーマにつき、知事賞が1点、それから関係団体会長賞として、兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県栄養士会、兵庫県いずみ会、兵庫県小学校長会のみなさんから優秀賞を決めていただくということで、よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆さんは審査用紙に記入してください。よろしくお願ひします。

## 《 審 査 》

### (部会長)

お待たせいたしました、審査の結果、最優秀賞、優秀賞が決定しました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

## 《 審査結果発表 》 ※結果は別紙参照

### (事務局)

保田部会長並びに委員の皆様方、本日は貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

今後のスケジュールですが、部会での協議は本日が最後となりますが、内部で検討を重ねた後、12月頃にパブリックコメントの実施、2～3月の審議会での答申という形になりますので、委員の皆さまにはもうしばらくご協力いただきますよう、お願いします。

それでは閉会にあたりまして、藪本健康局長よりご挨拶させていただきます。

### (藪本局長)

委員の皆さま、本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。本日の意見を踏まえ、事務局で検討を行い、最終案をまた皆さんにご確認いただき、ご意見いただきたいと思います。

この食育推進部会をはじめ、他の部会等においても、兵庫県の施策は良い取り組みをしているが、何をやっているか分からないということを委員の先生方によく言われます。この食育推進計画の内容においても、県民へ伝わりやすい計画となるよう、努力していきたいと思いますので、関係団体の方におかれましても、ご支援のほどよろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。